

子育て世代を対象にした優待カードを発行する、県内初の会員制支援サービスを担う。昨年4月の事業開始から1年で会員は7500世帯、趣旨に賛同するスーパーや飲食店など「サポート店」は520店を数えるまでに広がった。子どもを通じ、消費者と企業を結び付けるアイデアに、自信を深めている。

対象は、県内在住で、小学生以下の子ともがいる世帯。無料の会員登録をすれば、専用の会員証が届く。店頭にステッカーを張ったサポート店で会員証を提示すれば、割引サービスなどを受けられることができる。

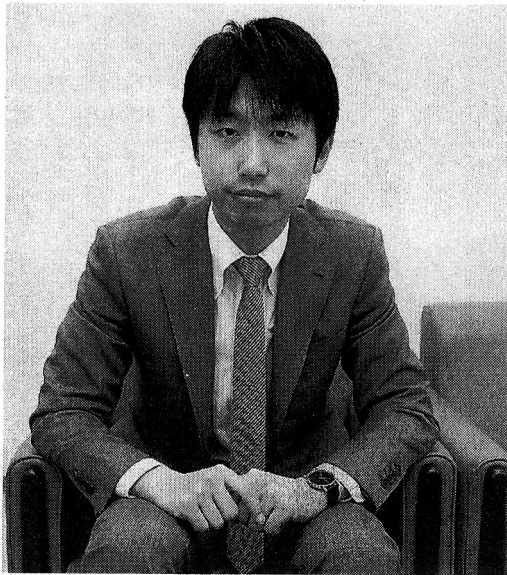
運営経費をまかなう収入の柱は、サポート店からの協賛金。当初は企業に事業趣旨を説明するのに苦労したという。事業の原点は、1歳4カ月になる長男の育児体験。父親の立場から、子育てを取り巻く地域社会の現状が見えてきたという。

「休日子ども連れで飲食店を利用しようにも、赤ちゃんを寝かせる座敷はないか。子どもが騒ぎ出せば、店員から白い目で見られるかも。家

にいがた人模様

子育て支援「トキっ子くらぶ」代表

今井進太郎さん(29)



いまい・しんたろう 1979年、長岡市生まれ。大学卒業後、東京のコンサルタント会社を経て帰郷し06年、「トキっ子くらぶ」などを運営する「コマスマーケティング」社を設立、社長に就任。仕事の合間に長男と風呂に入ることが何よりの楽しみだ。

会員制サービス担う

族連れの客は店の前で尻込みしているし、店も客のニーズに十分対応できていない」そこで考えた。少子化が進

み、子ども1人にかかる養育費が増える中、企業にとって子育て世代の購買力は大きな魅力のはずし。販売促進の

マーケティングを手がけるコンサルタントならではの着眼点で、ビジネスチャンスを見

いだした。もちろん、こうしたサービスが直ちに子育て環境を変え

るわけではない。それでも会員から「サポート店なら、イヤな顔はされないうとうとう安心感がある」との声が寄せられ、手応えを感じている。これからのテーマの一つは母親の就業支援という。子育てしながら働ける企業の採用情報を紹介する取り組みを開始した。

「働きたいお母さんの意欲を生かせるよう、みんな考えながら一緒に答えを見つけたい」

【五十嵐和太】